～子供の声を聴こう！これからの学校づくり～

魅力だより

No.1

R6.4月

高校教育課学校教育生徒指導班

新年度を迎え，先生方も子供たちも新たなメンバーと新たな気持ちで1学期がスタートしたことと思います。

昨年度から，県教委が推進している「魅力ある学校づくり」ですが，この1年で「生徒指導提要」の理解とともに，県内の多くの学校で取組が広がっているところです。

「生徒指導提要」が改訂されて2年目を迎えます。今回は，改めて生徒指導の意義や目的，「魅力ある学校づくり」の理念や手法について，おさらいの意味も込めて確認しましょう。

1 生徒指導の定義とは？

＜定義＞ 児童生徒が，社会の中で自分らしく生きることができる存在へと，自発的・主体的に成長や発達をする過程を支える教育活動のことである。なお，生徒指導上の課題に対応するために，必要に応じて指導や支援を行う。

① 児童生徒が自らを個性的存在として認め，自己に内在するよさや可能性に自ら気付き，引き出し，伸ばす
② 社会生活で必要となる社会的資質・能力を身に付けることを支える

⇒ 生徒指導の機能（働き）

↓

学校の教育目標を達成する上で，重要な機能を果たし，学習指導と並んで重要な意義を持つ。

2 生徒指導の目的とは？

＜目的＞ 児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に，自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えること。

① 「発達を支える」とは，心理面，学習面，社会面，進路面，健康面の発達を含む包括的なもの
② 生徒指導の目的達成のために，一人一人が「自己指導能力」を身に付けることが重要

↓

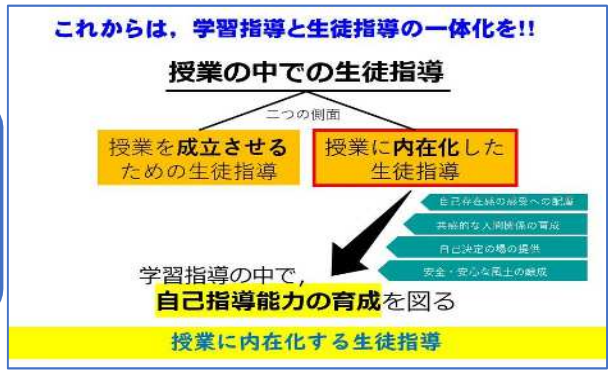
児童生徒が，深い自己理解に基づき，主体的に問題・課題を発見し，目標を選択・設定し，他者を尊重しながら，自発的・自立的に行動・実行する力

- ○ 児童生徒は，学校生活での多様な他者との関わり合いや学び合いを通して，「学ぶこと」，「生きること」，「働くこと」などの価値や課題を見いだす。
- ○ その過程で，生き方や人生の目標が徐々に明確になる。
- ○ 学校から学校，学校から社会への移行においても，主体的な選択・決定を促す自己指導能力が重要である。

3 生徒指導実践上の4つの視点

- ○ 自己存在感の感受への配慮
- ○ 共感的な人間関係の育成
- ○ 自己決定の場の提供
- ○ 安全・安心な風土の醸成

毎日の授業の中で4つの視点を踏まえた取組を行うことが最も重要



4 「魅力ある学校づくり」の理念と手法

子供と教師にとって「魅力ある学校」にするために，子供の声を聴く「意識調査」を指標として，教育活動の改善，見直しをする。

キーワード：「全ての児童生徒が対象」，「全ての教職員で行う」，「全ての教育活動で行う」

①学年の子供たちの１年後のゴールイメージ，その成長を支えるための具体策を話し合う。

＜ゴールイメージの例＞
- ○自分のよさや可能性を活かしていきいきと活動する。
- ○全員が，毎日満足して下校する。
- ○互いの意見を尊重しながら，自治的な活動ができる。
- ○主体的に協働的な学びを進めることができる。
- ○一人一人が成長を実感し自信をもって卒業を迎える。

＜成長を支えるための具体策の例（教師が取り組む）＞
- ○ 全員1日1回は，意識して認めたり誉めたりする。
- ○ 成長を実感できるようキャリアパスポートにする。
- ○ 委員会活動や係活動の企画・運営を委ねてみる。
- ○ 授業，行事などで「ふりかえり」を習慣化し，肯定的なコメントを書きフィードバックする。
- ○ 日々の授業で，学び合いの場を必ず設定する。

②「意識調査」により子供の声を聴く

※年度末に調査していなければ学期はじめでも可

学期末に実施（１人１台端末を活用すると効率的）
無記名式，４件法，基本的に学年単位で集計

【意識調査】

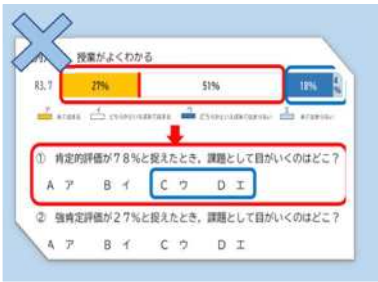
現在の学校生活について，あなたはどのように感じてますか。当てはまるものを右の１から４の中から選び，その番号に○を付けてください。

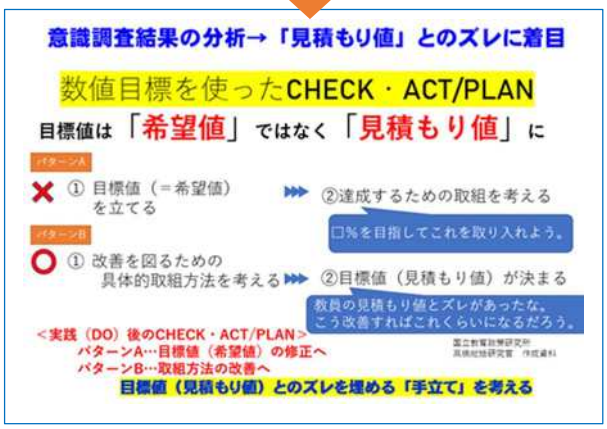
		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
ア	学校が楽しい	1	2	3	4
イ	みんなで何かをするのは楽しい	1	2	3	4
ウ	授業に主体的に取り組んでいる	1	2	3	4
エ	授業がよくわかる	1	2	3	4

必要最小限の調査で負担軽減も図りながら意味のある取組をねらう！
- ・学習と人間関係に絞った質問
- ・４件法
- ・無記名式
- ・学年単位で集計

※「１，当てはまる」に焦点化する！

強肯定評価「１，当てはまる」の割合が増えるにはどんな取組が必要か？





③「意識調査」を基に具体策を話し合う。

先生方による話合いでの共通理解（例）
- ●対象は，全ての子供
- ●個別指導・個別支援の話にならないようにする。
- ●経験値の有無は関係なし。
- ●どの立場の意見も尊重する。
- ●一人一人の考えを受け入れ，認める。
- ●ダメ出し，否定はなし。
- ●大きな負担があるものは採用しない。
- ●みんなが納得する。

※話合いで決まった取組を１学期間実施し，７月の「意識調査」結果で見積もり値とのズレを確認しましょう。

各学校では，取組を進める中で，不明なことや疑問に思うことが出てくることと思います。ちょっとしたことでも，どうぞお気軽にお尋ねください。（市町村教育委員会，各学校からでも大丈夫です。）

【連絡先】 高校教育課学校教育生徒指導班（梶原・福元）
TEL 099−286−5532
Email seitosidou@pref.kagoshima.lg.jp